# こくろうよなご

第２０号
２０２４年６月１０日
発行責任者　倉下文明
編　　集　教宣部

**つくろう職場に労働運動を！　ひろげよう闘いを　職場に、地域に、全国に！**

# 国民的議論なくていいのか！

５月２３日、定例記者会見において、山陰支社佐伯支社長より「木次線の出雲横田駅～備後落合駅間の沿線自治体と公共交通の在り方を協議するとの意向が示された」との報道がされました。新聞などで「唐突」と評されるように関係自治体とへの連絡は、意向表明当日であり、「特定の前提を置かず、協議の進め方を含めて相談したい」など白紙が強調されるものの、「廃止前提なら応じられない」など、関係自治体からの反発にもつながっているようです。

今回の報道を受けて、米子地方本部として①会見で示された具体的な内容及び意向表明のタイミングについて②意向表明に対する自治体の受け止め及びこれ以降の協議の進め方について③協議については、関係自治体の理解の上に進めること及び労働組合へ丁寧に説明することなど、中国統括本部に対して申し入れを提出してきました。

現在、木次線と結節する芸備線の備中神代～備後荘原間を対象に、路線の存続について協議する「再構築協議会」が設置され議論も始まっていますが、一連の動きを見たときに、「今後の鉄道の在り方」という国民的な議論を置き去りにしたまま、採算性を理由として「赤字ローカル線が次々に切る捨てられるのではないか」そんな懸念が大きくなるばかりです。私たちは、まさに当該の労働組合として、地域で生活する住民の移動手段の確保・地域振興の大切なツールとして、更には働く者の雇用の場の確保という観点からも「ローカル線を守る運動」を強化していかなければなりません。

昨年来からの自治体訪問の継続、そして、地域の中で鉄道の維持・存続を思う方々との大衆運動の前進に向け奮闘していきます。

## 実質賃金２５ヶ月連続で減少

物価の影響を考慮した働き手一人当たりの「実質賃金」は、過去最長となる２５ヶ月連続での減少となりました。労働者が実際に受け取る「名目賃金」こそプラスですが、物価高には到底追いついていないという事です。輸入価格を引き上げる円安に加え、電気・ガス代の政府補助も５月分で終了、さらなる物価上昇の要素と言えます。

過去最高の賃上げ率と喜んでばかりはいられないようです。

## 維持・存続への不安も！

去る５月２３日、境港市役所を訪問し、交通政策についての意見交換を行ってきました。

境線と言えば、鬼太郎ロードなどにインバウンドの方々含めて多くのご利用があるイメージですが、ＪＲ西日本が公表している輸送密度で公でいえば２２年度は２０００人と落ち込み、学生の数も減少傾向にある中で、将来的な路線維持への不安も出されていました。

市側からの要望としては、列車ダイヤでいうとこの間、減便された列車本数の改善や土休日の最終列車の時間帯の繰り下げなどが言われていました。

一方、設備面からは、駅舎へのトイレの整備やＩＣ化への対応として、チャージの出来る駅を増やしてもらいたいなどの要望も出されていました。

また、多客期には港ライナーなども運行されていますが、掲示や時刻表もないため、案内もできない現状や駅に電話も無くなり、気軽に相談できないなどの市民の皆さんからのご意見も有るとの事でした。

また、余子駅境方面の踏切について、「降下時期が快速列車の通過に合わせてあるためか、遮断時間が長く自動車の渋滞に繋がっている」との事で、こちらについても、改善してほしいとの意見を承りました。

市内には浜ループなどの循環バスも運行されていますが、列車との接続・行路など、利便性を高めることで、公共交通の利用を促進していきたいとも言われていました。

新幹線などの収益で、ローカル線も維持して頂けたらなど率直な意見も伺いながら、意見交換を終えてきました。

## 平和のシンボル！

昨年、捧げた折り鶴です

１９４５年８月、広島に落とされた原爆に被爆し、１０年後、白血病を患った当時小学校６年生の佐々木貞子さんは、「生きたい」と願い、鶴を折り続けました。その後、「折り鶴」は平和のシンボルとして、多くの国々で折られています。

昨年に引き続き、組合員全員が作成した「折り鶴」を平和記念公園のブースに捧げます。ご協力、宜しくお願いします。